膵臓（すいぞう）がん治療薬のドラッグラグ・アクセスラグ解消に関する要望書

特定非営利活動法人パンキャンジャパン
理事長　眞島　喜幸

1）日本の膵臓がん患者の現状

1)）膵臓がん患者の現状

全がんの 5 年生存率が約 70%になろうとするなか、過去 40 年間 5 年生存率が一桁なのが膵臓がんです。早期発見が難しく、約 8 割の患者が進行がんで発見されます。患者に時間の余裕はありません。化学療法を続けるうちに耐性ができ、次の薬剤に移行しなければなりませんが、使える薬剤が少ないために、亡くなる患者が続出しています。これを改善するには、米国で承認された新薬を日本に迅速に届けること、また、診断時にがん遺伝子パネル検査を受け、腫瘍マーカーに適した分子標的薬が使えるようにすることが大切です。日本でも遺伝子変異にマッチした薬が複数承認されているにも関わらず標準治療を終えないとがん遺伝子パネル検査が受けられないため使えません。これがアクセスラグという新しいゲノム医療の障壁です。その為、多くの膵臓がん患者が亡くなる状況を改善できません。膵臓がん患者がこれ以上苦しみ続けることのないよう、ドラッグラグ、アクセスラグ問題の解消を強く要望いたします。

2）要望の趣旨

・FDA 承認された膵がんの新薬の一日でも早い承認（ドラッグラグ解消）
・膵がん診断時のがん遺伝子パネル検査と生殖細胞系遺伝子検査（アクセスラグ解消）
・患者のがん遺伝子変異にマッチした薬剤（適応外薬を含む）を投与できる制度

氏　名	住 所(都道府県から記入・「〃」や「々」等の省略不可)

・署名用紙は、下記まで郵送ください。（申し訳ありませんが、郵送費はご負担ください）
〒102－0071 東京都千代田区富士見１－１２－１ NPO 法人パンキャンジャパン宛て
・署名頂いた内容については、記載の目的以外には使用しません。